

## <コロナ禍での国際交流活動エピソード>

2020年春からの新型コロナウイルスの感染拡大で、ほとんどのボランティア活動が休止状態となり、人と人との接触が厳しく制限されるコロナ禍において、国際交流の主要活動である留学生との一対一交流は難しい状況であるにもかかわらず、大学部会の会員の皆さまは、交流相手の留学生達を心配し、メールやLINE、Zoom等を活用してリモートでの交流を継続していただいています。

そうした中で事務局に最近届いたいくつかの交流エピソードをここにご紹介いたします。

### ①交流留学生の出産に際してのサポート

コロナの影響で母国に帰れなくなり、日本で初めての出産を経験することとなった留学生に、赤ちゃん用品提供のほか、いろいろとメールなどを活用しながら助言等のサポートを続け、その留学生は7月に無事出産されたそうです。

初めての出産を異国の地で迎えることとなった留学生にとっては、この会員さんのサポートが大変心強いものとなったようです。

### ②過去に交流していた留学生が会員さん宛にマスク等の支援物資を多数送ってくれました。

かつて交流していた台湾出身の留学生、卒業により母国へ帰国した今に至っても会員さんに向けられた心温まる思いやりが感じられます。日本ではマスク不足が深刻となっていた時期だけに、大変ありがたく、会員さんと留学生の絆の強さを感じさせるエピソードとなりました。

また、マスク支援についてはこの他にも、中国の留学生が母国から2000枚ものマスクを会員さんへ送ってくれたなど、会員さんが留学生のことを心配しているように、留学生もまた高齢の会員さんのこと、日本のことを気にかけてこのような支援をいただいたことは、大変ありがたいことであります。

なお、この大量の貴重なマスクは身近な医療機関、学校、保育所などへ寄付をしましたとの報告を会員さんより事務局にいただきました。会員さんの行動、対応に敬意を表します。

### ③「10万円の特別定額給付金」の申請サポート

申請書が日本語のため、手続きに戸惑っていた比較的多くの交流留学生より相談を受けた複数の会員の皆さまは、申請サポートを積極的にされました。

誰もが一刻も早く給付金の申請・受領を望んでいた時期に留学生達もこのサポートにはどれほど助かったことかと思えます。

以上、今回は三つのエピソードをご紹介させていただきました。

外出自粛等で一人家に閉じこもっていた留学生も多かったことと思います。

日本の大学生でもコロナ禍のもろもろの事情からうつ症状などが出ているとのニュースを見かける昨今、留学生も環境は同じで不安な毎日を過ごしていると思われるかもしれませんが、会員の皆さまが留学生との交流を継続していることは、留学生にとって大きな安心感につながっていることと思います。

コロナ禍前のような対面での交流はまだ難しい状況ですが、それでも一対一交流については留学生からの希望が多く、一部の大学ではZoomを利用して初回の顔合わせを実施するなど、Withコロナ時代に合わせた一対一交流活動の新たな展開が動き始めたところもあります。

新型コロナウイルス感染症が一日も早く収束することを願うばかりですが、それまでは交流方法等を工夫しながら、人と人とのつながりを維持していくことができるよう事務局としてもできる限りの努力をして参りたいと考えております。

引き続き皆さまのご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2020年9月記  
三井V-Net 事務局